

4 地域づくりの方針

- 地域の歴史文化をはじめとする学習と交流の機会を公民館・各種団体などが多く提供し、親世代・子世代、近隣住民が触れ合う中で、滋野地区の魅力や引き継がれてきた価値観をコミュニティの中で共有していきます。
- 山林、農地、景観などの地域資源を有効活用し、地域づくりに活かすとともに、交流や学習にも活用していきます。
- 自助・共助・互助の精神を大切にして、それぞれの住民、区、団体が自らできることを実践し、不足するものについては周囲と助け合える関係性をつくっていきます。
- 最終的には、滋野地区の豊かな暮らしを維持・発展させ、若い世代が戻る、あるいは入ってくる地域づくりを目指します。

5 将来像を実現するための推進体制

- 将来像を実現するためには、滋野地区の住民一人ひとりが地域づくりに関心を持つとともに、地区内の各種団体の連携が必要です。
- そのため、「しげの里づくりの会」が中心となって、住民や各種団体のみなさんとともに役割分担をしながら、具体的な取り組みを推進していきます。また、足りないところは、行政と協力して進めていきます。



「しげの里づくりの会」とは

しげの里づくりの会は、滋野地区を範囲に、住民や各種団体が連携を図りながら、地域課題の解決に向けて自主的・主体的に取り組む地域づくり組織として平成25年5月に発足しました。これまでは、「活性化研究委員会」や「生涯学習まちづくり推進協議会」、「育成会」などが中心となって地区の課題を集約してきましたが、事業活動や委員が重複しているなど非効率な面があったことから、これらの団体を統合し、新たな組織として再編しました。発足後、新たな試みとして住民のみなさんが主体となって実施した「通学合宿」が、地区の多くの住民が関わり地域力が発揮できた取り組みとして注目されています。また、平成27年度から新たに「支えあい部会」を設置し、地域での支えあいの推進や地域福祉に対する取り組みもはじめています。

しげの里づくりの会 組織図



地域団体、区選出委員等はその活動に応じて各部会に参加

区長・市議会議員・農業委員・農協役員・商工会代表・各区里づくり推進委員・分館長・PTA代表(小中学校)・交通安全代表・道の駅代表・女性団体代表・生涯学習推進員・滋野駅を愛する会代表・雷電の郷研究委員会代表・原口そばの里代表・財産区代表・消防団代表・保健補導員・青少年補導員・青少年育成委員・高齢者クラブ連合会代表・滋野小学校長・学識経験者・民生児童委員代表者

平成27年度東御市地域づくり活動補助金事業

みんなの力であふれる笑顔
ずっと住み続けたいふるさと滋野

滋野地区の 将来像



これからも住み続けたいと思える私たちのふるさと「滋野」をつくっていくのは、私たち住民です。そのため、地区内の各種団体の代表者等のみなさんとともに話し合いを行い、地域が抱える課題や問題を整理し、滋野地区の将来像をまとめた「地域ビジョン」を作成しました。
みんなで力を合わせて、「住んでいて良かった」また、「これからも住みたい」と思える滋野地区の未来をつくりましょう。

平成 28 年 3 月

編集・発行：しげの里づくりの会

滋野地区の将来像

良い点 気になる点

1 現状と課題

歴史・文化(伝統行事・文化の継承、雷電の活用など)

- 雷電、山浦清麿が知られていない
- このままでは滋野地区の歴史と文化が継承されない

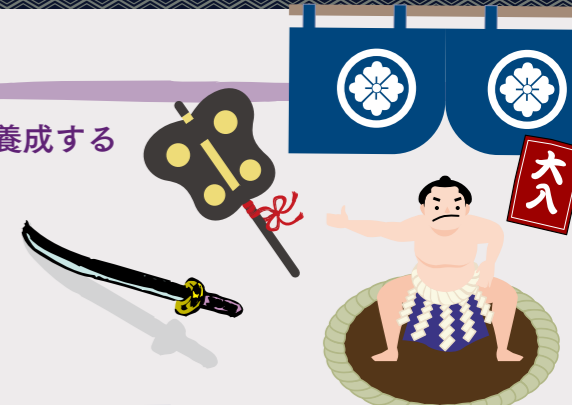


地域の歴史を学び、伝統文化が継承される地区

- 子どもたちをはじめ、だれもが地域の歴史と伝統を知っている
- 雷電、山浦清麿が全国的に知られ、地区の自慢になっている

3 実現させたいこと

- ▼ 歴史と伝統等を読み込んだ歌や民話を掘りおこし、語り部を養成する
- ▼ 歴史・文化(雷電、山浦清麿等)を継承し活用する
 - 雷電の誕生、没日にちなんだイベントをつくる
 - 滋野コミュニティセンターに山浦兄弟のコーナーをつくる
- ▼ 史跡を保存し活用する
 - 史跡の表示看板を設置する
 - 地域探検隊(仮称)をつくる
 - 伝統行事を掘りおこし継承する



2 地区の目指す姿

産業・環境(自然環境、農業・工業・観光振興、荒廃地対策、災害対策、防災など)

- 自然環境や農業資源に恵まれている
- 企業が多くある
- 結いの精神、地域の絆がある

- 荒廃地が増えている
- 農業後継者が不足している
- 道の駅が十分に活用されていない
- 防災対策、防災教育が不十分
- 消防団員の確保に苦慮している



次世代をひきつける自然・農地を活かした豊かな暮らしを実現できる地区

- 農地と自然環境を守り続けている
- Uターン、Iターン子育て世代が転入し定住している
- 消防団活動や区の防災活動などへ積極的に参加する防災意識の高い地域になっている

- ▼ 道の駅を核とした六次産業化と観光化を推進する
 - 道の駅を観光の拠点とする
 - 道の駅を利用した地元産品(ぶどう・くるみ等)と人材を活用した生産加工販売体制を確立する
 - 起業する際に、空き家を活用してもらう
 - 地元産品の全国への直売ルートを開発する
- ▼ 農業を元気にする
 - 農地を集約化し、若い農業者の組織化を支援する
 - 推奨作物(小麦、そば、くるみ、ワイン用ぶどう、アスパラ、山菜、薬草等)を指定し、栽培する
 - 食育や農業体験を通じて若者への農業PRを行う
- ▼ 災害に強い地域づくりを目指す
 - 100年に1回の災害に備えたタフな地域づくりを行う
 - 災害の比較的少ない地区であることをPRする
 - 大雪、台風等による災害の記録を残し定期的な啓発学習、避難訓練を実施する
- ▼ 潤いのある生活環境を実現する
 - 公共交通や公共施設等の充実を推進する
 - 自然環境を保全する

3 支えあい

地域福祉、高齢者の見守り、地域の支えあいなど

- 近所、仲間、グループ等様々な支えあいや集まりがある
- 若い住民が増えた(担い手として期待)

- 隣近所のつながりが希薄化している
- 高齢者が気軽に集える場所がない
- 高齢者クラブの活動が衰退している
- 健康になるための活動の場所が少ない

子どもから高齢者まで交流が盛んで支えあいができる地区

- 地区サロン等を拠点とした生きがいづくり・健康づくりができています
- 若者と高齢者が集う場がある



- ▼ 世代を超えたつながりや交流の場をつくる
 - 若者と高齢者との対話の機会を設ける
 - 一人暮らしや高齢者をサポートする
 - 多くの住民が集える行事を行う
 - 寄り合いの場所を設置し健康づくりを行う
 - 囲碁やお茶などができる交流サロンをつくる
- ▼ 農業による交流と生きがいをつくる
 - 休耕地を利用して地域住民の交流の場としての農園づくりを行う
 - 生きがいづくりとして、朝市を行う



4 青少年育成

子育て、少子化対策、地域の見守りなど

- 子どものイベント活動や地域交流が盛ん
- 子どもも大人も挨拶ができる人が多い
- 子どもたちが元気で明るい

- 家庭内のコミュニケーション不足
- 子どもたちがゲームに依存し悪影響が懸念される
- 子どもたちの放課後や土曜日の居場所が少ない
- 通学路の安全確保が不十分

子どもたちが成人しても住み続けたいと思える地区

- 子どもたちの地域を大事にする心が養われている
- 地元に住み続けてもらえる環境づくりができています



- ▼ 地域を大人と子どもでつくりあげる
 - 放課後子ども教室を創設する
 - 学校応援団の増員を図る
 - 大人(高齢者)と子どもの交流の機会をつくる
 - 青少年育成(行事)を支援するボランティアグループの登録制度をつくる
- ▼ 地域で子どもを見守る
 - 各区で見守り、声かけ活動を行う
 - あいさつ運動を実施する
- ▼ 通学時間帯の安全を確保する
 - 警察との連携を図る(パトロールによる見回りの実施)
 - 住民が通学時間帯に見守りを行う
- ▼ 子どもたちを地元に残すための働きかけを行う
 - 起業支援を行う
 - 地元企業へ就職できるよう働きかける
 - 若い人たちの住む公的なアパート等の建設を推進する
- ▼ 過度なインターネットの依存を解消させる
 - ネットリテラシー教育を普及させる
 - ゲームやスマホなどの安全な使い方を身につける



5 生涯学習

生涯学習、公民館行事のあり方など

- 公民館活動が盛ん
- 行事等を行う際、地区の協力体制がある

- 公民館行事への参加者が減少している
- 公民館行事の内容がマンネリ化している
- 公民館役員の負担が大きい

多様な住民が携わり楽しめる生涯学習が実践される地区

- 常に新鮮で住民の交流につながる活動を実践している
- 若い世代をはじめ、多くの住民が参加・参画できる活動を実践している

- ▼ 多くの住民が交流できる行事を計画し実施する
 - 地区の交流行事を地区内で開催する
 - 隣の区同士が交流するなど、区を超えて活動できる体制づくりを行う
 - 「滋野地区大運動会」を実施する
- ▼ 若い世代が中心となり公民館の企画・運営を担う
- ▼ 住民ニーズに応える公民館活動を行う
 - 住民ニーズを把握するためのアンケート調査を実施する



ふるさとひけの を知ろう

雷電為衛門



- ◆身長 (6尺5寸)197cm
- ◆体重 (45貫)169kg
- ◆勝率 9割6分2厘
- ◆年2場所制・優勝28回

体型は引退した把瑠都間のような体型だったといわれている。雷電の名は止め名。野球で言う永久欠番である。



10 諏訪神社 別府区

諏訪神社は集落の東部の「諏訪ノ森」地籍にあります。祭神は健甕名方命、事代主命となっていますが、創立年代は不詳。石鳥居は宝暦9年(1757年)建立の明神鳥居で額に梶の葉模様があります。石灯籠は明和9年(1771年)建立で1対となっています。



原口区

11 伊勢社

伊勢社は原口区の鎮守社です。天明7年(1787年)に本殿・拝殿・灯籠・鳥居・石瀨を改築し、祭神豊受大神を祀ることになりました。中でも石灯籠は四角形で各面に松・竹・梅の彫刻があり彫刻としては最優良品と言われています。4月20日、五穀豊稔の本祭を行っています。



1 大けやし 聖区

聖区は太平洋戦争後に開拓された集落です。戦後日本は食料が不足し、その対策として国が沢山の土地を開拓し農地を増やそうとしました。聖区もその中の一つとして昭和21年2月に開拓が始まりました。大けやしは集落の入口にあり聖区のシンボルです。



9 夏祭り 乙女平区

昭和46年に団地を造成し「乙女」と言う小字名をとり乙女平と名付けたそうです。滋野地区では歴史の浅い区ですが、区民の皆さんで新しい事業を立ち上げて活動をしています。写真は、区民総出の夏祭り「子供神輿」の風景です。



8 おおきな絆 王子平区

昭和50年頃から住宅が建ち始まり、小字名が王子平で、乙女平の隣だったので王子平となりました。写真の桜の木は王子平が出来た時に植えられたもので桜の時期にはきれいな花を咲かせます。世帯数が少ないですがかえって気心も知れており、区内清掃環境整備も皆で行っております。



7 観音堂 大石区

有津倉にあり、5/8と9/8にお祭りがあり五色の吹き流しが建てられ、甘茶が振舞われます。以前は屋台も出てにぎわいました。この観音堂は、江戸時代から平屋で本尊仏壇間・集会室の部屋などがあり、明治の初めに大石止信小学校がこの堂で開設されました。明治19年まで大石公民館が出来るまで会合の場所でした。昭和8年道路改修が行われ現在の形に新築されました。



6 桜井神社本殿彫刻 桜井区

明治初期の火災後に再建された桜井神社の本殿の組物に、「渡辺綱の鬼女退治」と「太田道灌と山吹を差し出す娘」の逸話が彫刻されています。また、夫婦和合の微笑ましい様子も彫られています。諏訪の宮大工の流れを汲む彫師によるものと言われています。



5 お囃子屋台 片羽区

江戸時代に造ったものと言われています。破風や欄間に彫刻がされており古さを感じます。平成9年から屋台の中に乗ってお囃子を演奏し、区内外のお祭りに参加しています。



4 山浦真雄宅跡 赤岩区

敷地内には真雄・清麿兄弟を偲ぶ山浦兄弟墓があり、兄真雄が「老の寝ざめ」を著した旧居宅跡と鍛冶場及び石造の水櫃2基が残っています。真雄は、信州刀剣界で優れた鍛刀術を残し、立派な人格は清麿・兼虎ら山浦一門刀工を育てました。



2 巨峰団地 中屋敷区

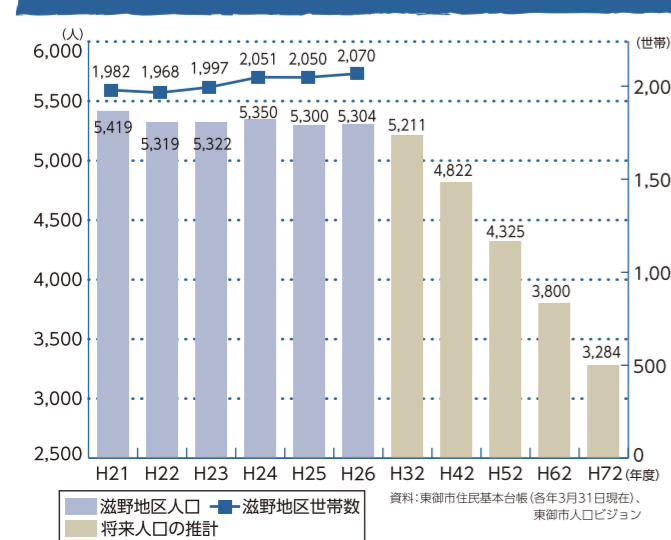
中屋敷地区では養蚕業が衰退する中で、昭和36年に長野県の近代化モデル事業に応募し、地域をあげて当時高級ブドウであった巨峰栽培に取り組みました。その甲斐あって昭和50年には朝日農業賞を受賞し、全国ブランドになりました。この間二度にわたり天皇陛下にご視察いただいています。ブドウ栽培を通じての絆が中屋敷の伝統となっています。



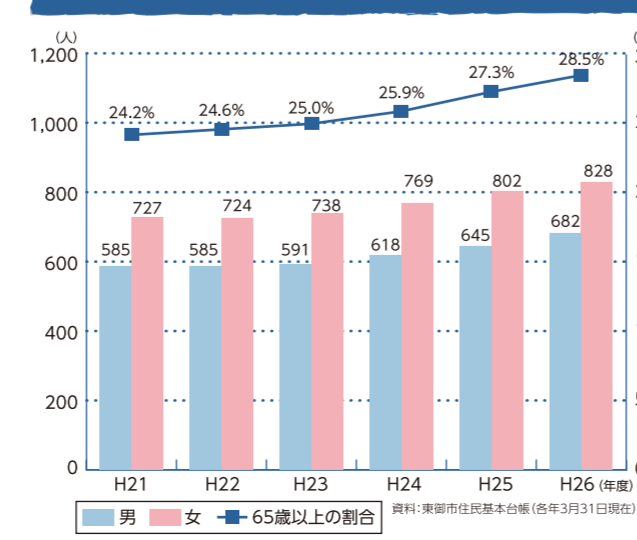
3 滋野小学校の桜

滋野小学校の国道18号線沿いの桜は毎年見事に咲き、地元住民や国道を行き交う人々を楽しませてくれます。

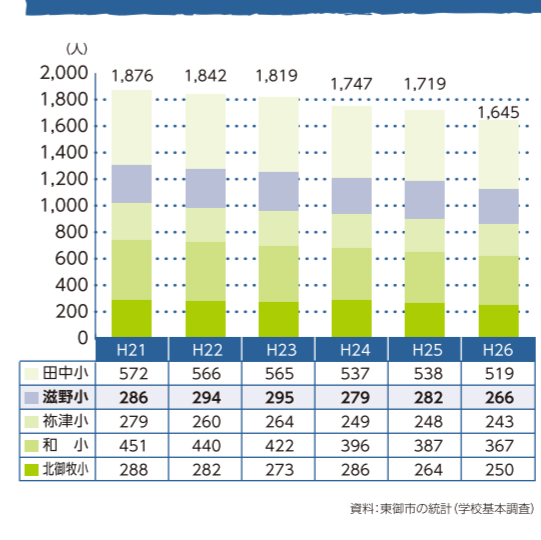
滋野地区の人口・世帯数の推移と将来人口の推計



滋野地区の65歳以上の人数と割合



東御市の小学校児童数の推移



滋野駅の乗降者数の推移

